

本年度、水難・山岳遭難の発生状況が増加傾向にあります。

秋の行楽期には、釣りや登山と県内の海や山に、たくさんの方が訪れる一方で、水難や山岳遭難の発生も多発する時期でもあります。

くれぐれも、事故のないよう心掛け、海や山のレジャーを安全に楽しんでください。

【水難の発生状況について】

令和4年（1～8月）中、県内においては、27件、28人（前年同期比+6件、+2人）の水難が発生しました。このうち15人（53.6%）と半数以上の方が亡くなっており、増加傾向にあります。

○ 水難の特徴

① 態様別

「魚とり・釣り」をしているときの発生が11人（39.3%）と最も多く、次いで「水遊び」が4人（14.3%）と続きます。

三重県は、海に面しており、県内外から多くのレジャー客が訪れることもあり、天候や釣り場の危険箇所等を考慮せずに行う「魚とり・釣り」が多いのが特徴となっております。

② 場所別

「海」での発生が22件（81.5%）、23人（82.1%）と最も多く、次いで、「河川」5件（18.5%）、5人（17.9%）と続きます。

③ 性別・年齢層別

「男性」が23人（82.1%）、「女性」が5人（17.9%）となっております。また、年齢別では、「70歳代」が6人（21.4%）と最も多く、次いで「50歳代」が5人（17.9%）となっております。

【山岳遭難の発生状況について】

令和4年（1～8月）中、県内においては、48件、59人（前年同期比+8件、+12人）の山岳遭難が発生しました。このうち5人（8.5%）が亡くなっており、水難同様山岳遭難も増加傾向となっております。

○ 山岳遭難の特徴

① 態様別

「道迷い」が28人（47.5%）と最も多く、次いで「滑落」が13人（22%）と続きます。

三重県内では、登山で人気の御在所岳（鈴鹿山脈）でも、標高1212メートルと、北アルプスや南アルプスなどの標高2000～3000メートル級の山々と比べると標高の低い山が多く、登山計画を立てず軽装での登山者による「道迷い」が多いのが特徴となっております。

② 山域別

「鈴鹿山脈」での発生が29件（60.4%）、38人（64.4%）と最も多く、次いで、「中部の山」が5件（10.4%）、7人（11.9%）と続きます。

また、人気の高い御在所岳では、鈴鹿山脈での発生29件中14件（48.3%）、38人中21人（55.3%）とほぼ半数を占めております。

③ 性別・年齢層別

「男性」が37人（62.7%）、「女性」が22人（37.3%）となっています。また、年齢別では、「20歳代」、「30歳代」、「50歳代」が各13人（22%）と最も多く、次いで、「70歳代」が8人（13.6%）となっています。

近年は、「若い世代」の遭難者が増加傾向にあります。

④ 単独登山者の遭難状況

令和4年中は、遭難者59人のうち、単独での登山者は24人（40.7%）、複数での登山者は35人（59.3%）でした。

また、死者5人のうち4人（80%）が単独での登山者です。

【問い合わせ先】警察本部 地域課

TEL 059-222-0110（代）

掲載写真

